

日時 2016年5月14日(土)
12:10~13:10

会場 第1会場 神戸国際会議場
1F メインホール



座長

山本 修一 先生 (千葉大学)

周辺の視野狭窄が主要症状である網膜色素変性の診療では視力や眼底検査に加え、ゴールドマン視野検査が一般的に行われています。しかしこの疾患が慢性進行性であることを考慮すれば、患者さんごとの自覚症状の変化やその進行の速度を把握することが非常に重要であると考えます。現在、ハンフリー視野やマクロペリメトリを用いることで網膜感度の変化を測定することが可能です。さらにOCTでのエリプソイドゾーンの観察や眼底の自発蛍光の測定により自覚症状に直結する網膜の機能変化を予測することができます。

今回のセミナーでは飯島先生と三田村先生から視野検査や機能検査の意義について講演をいただきます。病態はもちろん各種検査の理解を深め患者さんごとのマネジメントに役立てていただければ幸いです。



演者1

視野検査の存在意義

飯島 裕幸 先生 (山梨大学)



演者2

構造や機能検査の存在意義

三田村 佳典 先生 (徳島大学)

網膜色素変性の

診療を考える

視野から

第5回日本視野学会学術集会 ランチオンセミナー1

第5回日本視野学会学術集会ホームページ
<http://jps.umin.jp/meeting/m-index.html>



座 長

山本 修一 先生 (千葉大学)



- | | |
|-------------------------|----------------------------|
| 1983年 千葉大学 医学部 卒業 | 1997年 東邦大学佐倉病院 眼科 助教授 |
| 1989年 千葉大学大学院 医学研究科 修了 | 2001年 東邦大学佐倉病院 眼科 教授 |
| 1990年 富山医科薬科大学 眼科 講師 | 2003年 千葉大学大学院 医学研究院 眼科学 教授 |
| 1991年 米国コロンビア大学眼研究所 研究員 | 2014年 千葉大学医学部附属病院 病院長 併任 |
| 1994年 富山医科薬科大学 眼科 助教授 | 現在に至る |

演 者 1

視野検査の存在意義

飯島 裕幸 先生 (山梨大学)



- | | |
|--------------------|------------------------------|
| 1978年 東京大学 医学部 卒業 | 1986年 山梨医科大学 眼科 助教授 |
| 東京大学医学部附属病院 眼科 助手 | 1999年 山梨医科大学 (現在：山梨大学) 眼科 教授 |
| 1982年 山梨医科大学 眼科 助手 | 現在に至る |
| 1983年 山梨医科大学 眼科 講師 | |

演 者 2

構造や機能検査の存在意義

三田村 佳典 先生 (徳島大学)



- | | |
|---------------------------|---|
| 1987年 北海道大学 医学部 医学科 卒業 | 2001年 札幌医科大学 医学部 眼科学講座 講師 |
| 北海道大学医学部附属病院 眼科 医員 (研修医) | 2005年 文部科学省・海外先進教育研究実践支援プログラム
(University of Southern California,
Doheny Eye Institute) |
| 1989年 市立釧路総合病院 眼科 医員 | (Cleveland Clinic, Cole Eye Institute) |
| 1990年 北海道大学医学部附属病院 眼科 医員 | 2006年 千葉大学大学院 医学研究院 眼科学 准教授 |
| 1993年 富良野協会病院 眼科 医長 | 2010年 徳島大学大学院 医歯薬学研究部 眼科学分野 教授 |
| 1994年 北海道大学医学部附属病院 眼科 医員 | 現在に至る |
| 1995年 国立札幌病院 眼科 医師 | |
| 1996年 東邦大学医学部附属佐倉病院 眼科 助手 | |